高齢福祉

高森町 地域包括支援センター便り

認知症サポーター養成講座報告

●日頃の生活の中で、できるだけ身体を動かしましょう。　●歩くとき、座るときなど、背筋を伸ばしましょう。

２月24日　高森高校１～２年生と先生受講

高森高校で認知症サポーター講座

本町に限らず、「認知症」が介護状態に入る原因の一番目になっています。

このため、本町では認知症予防教室などの介護予防事業を実施すると共に、認知症の原因や認知症の方への対応、そして予防や早期の診断と治療の大切さなどを正しく学び、地域全体で認知症の方とそのご家族を支えていく事を目的として、認知症サポーター講座を開講してきました。

２月24日、熊本県立高森高等学校（廣野康孝校長）において、人権教育講演会として本講座を開講していただきました。

この日の受講者は卒業前の３年生を除く１～２年生と先生方の82名。

本講座は認知症の方だけのことではなく、全ての人権を守ることにもつながる大切なものです。

受講いただいた生徒の皆さんから、次のとおりたくさんの素晴らしい感想文も寄せていただきました。本当にありがとうございました。

平成23年３月末までの本町の本講座を受講した認知症サポーターは１３００人を越え、本町住民登録数と比較して、約18％の方が受講いただきました。（詳細は後月号で報告）

今後も町内の各地域や職域、職場、学校などで続けて開講します。

●この講座の詳しいことは、本誌の平成23年７月号に掲載していますのでご覧ください。

●講座受講のご希望は…62-1111　内線121番までご連絡ください。

（お一人あるいは少人数でも開講します。受講料は無料）

受講者　皆さんの声

◆今回の講演は認知症の方の人権を守ることにもつながる大切なこと。そして人権を「守り合う」大切さも解りました。

◆「ボケた」とか「アルツが入った」とか、色々なところで普通に聞きますが、これは認知症の方の心を傷つけている事だと解りました。

◆認知症の方の事に限らず、不用意な言葉が人の心を傷つける事もあらためて解りました。私も気を付けたいと思いました。

◆何事も正しく知る大切さ、そして講座で使われた「だまし絵」を見ることで、物をただ見るだけではなく、脳がそれをどう認識しているかという意味を実体験できました。

◆認知症の方の気持ちと症状を例えるお話しの中で「言葉が解らない外国で一人」になることを想像してみて、認知症の方の気持ちを実感として解った気がしました。

◆認知症は脳血管や脳神経の障害による病気であり、早期診断と治療、そして成人病にならないことが大切だと思いました。

●この他、たくさんの素晴らしい感想を寄せていただきましたので、後月号で紹介します。

高森町の高齢化率（平成24年２月末日現在）

世帯数	2,812			
人口	男	女	計	比率
	3,407	3,742	7,149	
65～74歳	413	519	932	13.03%
75歳以上	555	866	1,421	19.88%
計	968	1,385	2,353	32.91%

●一人暮らし、お年寄りだけのご家族などには、定期的な連絡をお願いします。
●認知症に限らず、お年寄りの対策は、ご本人やご家族だけの対応では困難な場合が多く、地域みんなでの助け合い・支え合いが必要です。
●寒い日が続きます。風邪に気を付けてお過ごしください。
●家の中ではなるべく身体を動かしましょう。
●火の始末にも気を付けましょう。

高齢者一人暮らし、二人暮らし、昼間の一人暮らし、認知症などのご相談をお受けします。　６２－１１１１　内線１２３番